

歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財

走出の井立池の北西岸に、大きなネズの木が立っています。南は斜面、北は道路に挟まれているものの、樹勢はおう盛です。幹の周囲約三メートル、根元周囲約四メートル、高さ約十五メートル、推定樹齢三〇〇年以上です。ネズの木としては、県下でも三指に入る巨木だそうです。

この木の下を通る細い道は、東に進むと真言宗持宝院の山麓から走出の集落を通って矢掛町へ、西へ進めば山間をぬって井原市の門田町へと通じています。ネズの木は、この街道を通る人たちの格好の休み場所・目印になっていたことでしょう。

木の根元には、「塞の神」の祠があり、神木として祠とともに地区の方の信仰の対象となっています。平成二年六月には、地元の上井自治会により「オノノ神」の石碑が建立されています。塞の神は本来、村の入り口に立って、よそから入り込んでくる恐ろしいものを防ぐ神様のことです。

ちなみにネズ（ネズミサシ）はヒノキ科の常緑低木、針葉樹で、この地方ではモロギとも呼ばれます。堅くて香気があり、杭などによく使われた木です。



い だち
井立のネズの木
市指定天然記念物

展覧会と行事のご案内

<特別展>

彩艶 金谷朱尾子 —うつろう心—

10月11日(土)~11月24日(月)
月曜日休館(ただし10月13日、
11月3日は開館し、翌日休館)
開館時間 9:30~17:00
一般800円(前売700円)
市内在住の65歳以上の人
は入館無料です。

講演会(無料・要予約)
10月11日(土)13:30~
笠岡グランドホテル

お茶会(笠岡茶道連盟)
10月12日(日)10:00~16:00
お茶券300円(入館料別途)

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

へ特別展 彩艶

金谷朱尾子—うつろう心—

竹喬美術館みどころ 6



金谷朱尾子
<塔と人とうつろいと>

昭和56年 個人蔵

竹喬美術館では、これまで、地域の芸術家の埋もれた業績を掘り起こす作業を、活動テーマのひとつと位置付けてきました。このたび開催する金谷朱尾子展は、この一環です。金谷朱尾子(1953~2004)は岡山市に生まれ、岡山朝日高校を経て、昭和51年に京都府立芸術大学日本画専攻を卒業しました。同年の日展に初入選し、昭和56年の第13回日展ではわずか28歳にして《塔と人とうつろいと》で特選を得ています。その後、日展を中心に、「現代の女流画家展」や池田遥軒門下で構成される「青塔社展」などで活躍し、昭和57年からは岡山大学の特設美術科で教鞭をとりました。豊かで鋭利な感性で捉えられた花鳥や人物は、画家自身の微妙な心のうつろいを如実に物語っています。平成16年に51歳で生涯を閉じた金谷朱尾子の作品の数々を、この機会に広く知っていただけたら幸いです。

発行日/平成20年10月1日
発行/笠岡市役所
編集/企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷/株国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。

係から

10月1日、笠岡市自治基本条例が施行されました。市民から寄贈された施行を祝す懸垂幕を市庁舎に掲げています。条例の前文に記された、笠岡市の自治体としての基本理念「私たち市民が自ら考え、自らの責任のもとに自ら行動すること」と第四条の笠岡市の自治の基本原則

- (一) 自主及び自立の原則
 - (二) 人権尊重の原則
 - (三) 参加及び協働の原則
 - (四) 情報共有の原則
- を反映した広報紙であるように心懸けます。条例の全文は広報かさおか7月号、または笠岡市のウェブサイトをご覧ください。

今月の表紙

8月23日、笠岡小学校グラウンドで笠岡市防災訓練が実施されました。

500人を越える多数の市民が参加。初期消火や津波に備えた避難、土のう設置などの訓練をしました。